歐人で元史研究に多大な業績を擧げた一人ブレットシュナイダー（Bretschneider）は元史本紀に西紀一三三一年（卽ち文宗の至順二年）翰林院に命じて元朝の制度に關する文書を集め、唐・宋會要の例に倣つて編著せしめたことが見えると述べて居るけれども、余の知る限りに於ては、この年にかゝる記事は存しない。今諸書に就いてこの書の編纂に關する重なる記事を拾集してその始末を考へて見ると、元史文宗本紀に

〔天曆二年九月〕戊辰敕二翰林國史院官同奎章閣學士一。采二輯本朝典故一。準二唐宋會要一。著爲二經世大典一。

と見えるのがこれに關する最初の記事で、元史類編も元史新編も皆これに從つてゐる。但だ兩書ともに戊辰を丁卯に作つて居るが、これは類編の著者が丁卯の下に僅かに五字を隔てゝ記された戊辰の二字を見落し、而して新編はそれに據つたに過ぎぬであらう。この敕は言ふまでもなく、この前月卽ち八月に復び卽位した文宗の發したもので、[9]那珂博士がこれを明宗に歸したのは偶然の誤に過ぎないと思はれる。ついで同紀翌天曆三年卽ち至順元年の條には

春正月丙辰趙世延・趙世安、領下纂二脩經世大典一事上。

と見え、また趙世延傳（元史卷百八十）にも

至順元年詔二世延・虞集等一。纂二脩皇朝經世大典一。

と見えて居る。虞集の傳にはこの事實は詳らかに記されてゐるが、それについての年次を掲げてゐない。思ふに經世大典を脩むることは去年既に詔せられた所であるが、それは文宗復び卽位した翌月のことでもあり、また單に翰林院や奎章閣に詔してその纂修を命じただけに止つて、なほ責任者も定まつて居なかつたのを、この時かく定めることになつたものと思はれる。然るにこの事業は如何なる事情に依りてか、兎角進捗しなかつたものと見えて、同